

平成26年度林木育種成果発表会を開催

1月29日(木)、東京都江東区の木材会館において、「国民の多様なニーズに応えるために林木育種ができること」をテーマに、林木育種成果発表会を開催し、都道府県等から、約130名の参加がありました。

まず、秋田県立大学木材高度加工研究所の高田克彦教授から、「これからの林木育種に期待すること」の特別講演、鹿児島県森林技術総合センターの宮崎学研究専門員から「成長速度に優れた種苗の多様な施業下での成長パターンの解明」の特別報告をいただきました。

その後、林木育種センター、東北育種場、九州育種場及び森林バイオ研究センターから、エリートツリーの特性など新品種の開発、長期的な遺伝資源管理に向けた天然林の調査事例、ケニアにおける林木育種技術協力等、7課題について成果を発表し、さらに平成26年度に開発された新品種の説明もあわせて行いました。

都道府県の研究機関や苗木ユーザーの方々等、幅広い分野の方々が熱心に耳を傾けており、林木育種に対する関心の高さが感じられました。



第4回林木育種技術戦略委員会を開催

2月9日(月)、第4回林木育種技術戦略委員会を開催しました。

この委員会は育種センターで開発した次世代林業用種苗の供給・普及のための技術的課題の検討・助言をする機関として設置されています。

次世代林業用種苗のうち、特に優れたものが特定母樹として指定され、国の施策として普及されることになったところです。

これにあわせ、育種センター・育種場で次世代林業用種苗普及を目的に開催している高速育種運営会議を来年度からは特定母樹等普及促進会議と改め、特定母樹等の育苗や育林に関する試験や情報提供を行っていきたく考えています。これに対して委員からは、苗木生産者や造林者との協力のもと、これらの新しい取組を進めてほしいとの意見が出されました。



林木育種センターの植物紹介

林木育種センターで研究・保存している植物をご紹介します。

クロボウモドキは、南西諸島の西表島と波照間島および台湾の離島である蘭嶼だけに分布するバンレイシ科の高木で、ライムグリーンの吹き流しのような花が特徴です。バンレイシ科は、2,000種以上を含む大所帯で、高価な香水の原料となるイランイランノキ、日立市十王町の名産品のポポー等が有名どころですが、その分布は熱帯に偏っており、我が国に自生するのは本種だけです。分布域が非常に限られていることも考慮すると、大変貴重な植物だといえるでしょう。

西表島では隆起石灰岩の崖地で観察することができますが、自生地は多くはなく、攪乱を受けやすい場所ばかりです。そのため、環境省のレッドリストでは最高ランクの絶滅リスクを示す絶滅危惧IA類に指定されています。こうした現状を鑑みて、林木育種センターでは、西表熱帯林育種技術園にて生息域外保全を行っています。



文責・イラスト：
遺伝資源部 保存評価課 大谷雅人

クロボウモドキ

学名: *Monoon liukiunse*

林木育種情報 No.18

平成27年3月27日発行

独立行政法人 森林総合研究所 林木育種センター

〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL : 0294-39-7000(代)

FAX : 0294-39-7306

ホームページ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>

表紙タイトル写真は、林木の種子等の保存施設「林木遺伝資源保存棟」

※紙へリサイクル可

